

別表

各学年・教科等における環境教育にかかわる内容

【小学校】

学年	教科	領域	内容及び内容の取扱い	環境関連項目
小1・2	生活		<p>目標</p> <p>(2)自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心をもち、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。</p> <p>内容</p> <p>(5)身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。</p> <p>(6)身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。</p> <p>(7)動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。</p> <p>内容の取扱い</p> <p>(2)自分と地域の人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動を行うこととし、校外での活動を積極的に取り入れること。 (後略)</p>	<p>身近な自然とのかかわり</p> <p>季節の変化と生活</p> <p>自然や物を使った遊び</p> <p>動植物の飼育・栽培</p> <p>生き物への親しみ</p> <p>校外での活動</p>
	道徳		<p>内容</p> <p>3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。</p> <p>(1)身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。</p> <p>(2)生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</p> <p>4 主として集団や社会とのかかわりに関すること</p> <p>(1)みんなが使う物を大切にし、約束やきまりを守る。</p>	<p>身近な自然</p> <p>生命の尊さ</p> <p>公德心</p>
小3	理科		<p>内容</p> <p>A 生物とその環境</p> <p>(1) 身近な昆虫や植物を探したり育てたりして、成</p>	

		<p>長の過程や体のつくりを調べ、それらの成長のきまりや体のつくり及び昆虫と植物とのかかわりについての考えをもつようにする。</p> <p>イ 植物の育ち方には一定の順序があり、その体は根、茎及び葉からできていること。</p> <p>ウ 昆虫には植物を食べたり、それをすみかにして生きているものがあること。</p>	昆虫と植物のかかわり
	体育 保健	<p>(1)健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活の仕方が理解できるようにする。</p> <p>イ 毎日を健康に過ごすためには、体の清潔を保つことで明るさ、換気などの生活環境を整えることなどが必要があること。</p>	身のまわりの清潔や生活環境
小3・4	社会	<p>内容</p> <p>(3)地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学したり調査したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。</p> <p>ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり</p> <p>イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること。</p> <p>内容の取扱い</p> <p>「飲料水、電気、ガス」については、それらの中から選択して取り上げるものとする。また「廃棄物の処理」については、ごみ、下水のいずれかを選択して取り上げ、その際、廃棄物を資源として活用していることについても扱うようにする。</p>	<p>飲料水</p> <p>電気</p> <p>ガス</p> <p>廃棄物処理</p> <p>ごみ</p> <p>下水</p>
	道徳	<p>内容</p> <p>3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。</p> <p>(1)自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすること。</p> <p>(2)生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重すること。</p> <p>4 主として集団や社会とのかかわりに関すること</p> <p>(1)約束や社会のきまりを守り、公德心をもつこと。</p>	<p>自然環境</p> <p>生命の尊さ</p> <p>公德心</p>
小4	理科	<p>目標</p> <p>(1)身近に見られる動物の活動や植物の成長を季節と関係付けながら調べ、見いだした問題に興味・関心をもって追究する活動を通して、生物を愛護する態度を育てるとともに、動物の活動や植物の成長と環境とのかかわりについての見方や考え方を</p>	生物愛護

		<p>を養う。</p> <p>内容</p> <p>A 生物とその環境</p> <p>(1) 身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と季節とのかかわりについての考えをもつようにする。</p> <p>B 物質とエネルギー</p> <p>(3) 乾電池や光電池に豆電球やモーターをつなぎ、乾電池や光電池の働きを調べ、電気の働きについての考えをもつようにする。</p> <p>イ 光電池を使ってモーターを回すことができること。</p> <p>C 地球と宇宙</p> <p>(2) 水が水蒸気になる様子を観察し、温度と水の変化との関係などを調べ、水の状態変化についての考えをもつようにする。</p> <p>ア 水は、温度によって水蒸気や氷に変わること。</p> <p>イ 水は水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれるとともに、結露して再び水になって現れることがあること。</p>	<p>動物の活動や植物の成長と環境とのかかわり</p> <p>電気の動き</p> <p>水の状態変化</p>
小5	社会	<p>内容</p> <p>(1) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。</p> <p>(4) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを・・・</p> <p>イ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ</p> <p>ウ 国土の保全や水資源の涵養のための森林資源の働き</p> <p>内容の取扱い</p> <p>(6) 内容の(4)についての扱い</p> <p>ウ イについては、大気の汚染、水質の汚濁などの中から具体的事例を選択して取り上げること。</p> <p>エ ウについては、我が国の国土保全等の観点から扱うようにし、森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力及び環境保全のための国民一人一人の協力の必要性に気付くよう配慮すること。</p>	<p>食料確保 自然環境</p> <p>公害</p> <p>水資源 森林資源</p> <p>大気の汚染 水質の汚濁</p> <p>国土保全</p>
	理科	<p>内容</p> <p>A 生物とその環境</p> <p>(1) 植物を育て、植物の発芽、成長及び結実とその</p>	

		<p>条件についての考えをもつようにする。</p> <p>イ 植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。</p> <p>ウ 植物の成長には、日光や肥料などが関係していること。</p> <p>(2) 魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりして、卵の変化の様子を調べ、動物の発生や成長についての考えをもつようにする。</p> <p>ア 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつにつれて中の様子の変化してかえること。</p> <p>イ 人は母体内で成長して生まれること。</p> <p>Ｃ地球と宇宙</p> <p>(2) 地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつようにする。</p> <p>ア 流れる水には、土地を削ったり、石や土などを流したり積もらせたりする働きがあること。</p> <p>イ 雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場面があること。</p>	<p>植物の発芽・成長・結実</p> <p>動物の発生</p> <p>流水の働き</p>
小5・6	家庭	<p>内容</p> <p>(5) 日常よく使用される食品を用いて簡単な調理ができるようにする。</p> <p>イ 材料の洗い方、切り方、味の付け方及び後片付けの仕方が分かること。</p> <p>(6) 住まい方に関心をもって、身の回りを快適に整えることができるようにする。</p> <p>イ 身の回りを快適に整えるための手だてや工夫を調べ、気持ちよい住まい方を考えること。</p> <p>(7) 身の回りの物や金銭の計画的な使い方を考え、適切に買物ができるようにする。</p> <p>ア 物や金銭の使い方を自分の生活とのかかわりで考えること。</p> <p>(8) 近隣の人々との生活を考え、自分の家庭生活について環境に配慮した工夫ができるようにする。</p> <p>内容の取扱い</p> <p>エ (7)のアについては、使っていない物を家庭内で再利用するなど物の活用についても扱うこと。</p>	<p>暮らし方</p> <p>環境への配慮</p> <p>物の再利用</p>
	道徳	<p>3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。</p> <p>(1) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。</p> <p>(2) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重すること。</p> <p>4 主として集団や社会とのかかわりに関すること</p>	<p>自然環境</p> <p>生命の尊さ</p>

		<p>(1)身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。</p> <p>(2)公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。</p>	公德心
小6	理科	<p>内容</p> <p>A 生物とその環境</p> <p>(1) 人及び他の動物を観察したり資料を活用したりして、呼吸、消化、排出及び循環の働きを調べ、人及び他の動物の体のつくりと働きについての考えをもつようにする。</p> <p>ア 体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていること。</p> <p>イ 食べ物は、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。</p> <p>ウ 血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素を運んでいること。</p> <p>(2) 動物や植物の生活を観察し、生物の養分のとり方を調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつようにする。</p> <p>ア 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。</p> <p>イ 生きている植物体や枯れた植物体は動物によって食べられること。</p> <p>ウ 生物は、食べ物、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。</p> <p>B 物質とエネルギー</p> <p>(1) いろいろな水溶液を使い、その性質や金属を変化させる様子を調べ、水溶液の性質や働きについての考えをもつようにする。</p> <p>ア 水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること。</p> <p>ウ 水溶液には、金属を変化させるものがあること。</p> <p>(2) 物を燃やし、物や空気の変化を調べ、燃焼の仕組みについての考えをもつようにする。</p> <p>ア 植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。</p> <p>内容の取扱い</p> <p>(2)生物、天気、川、土地などの指導については、野外に出掛け地域の自然に親しむ活動を多く取り入れるとともに、自然環境を大切にする心やよりよい環境をつくろうとする態度をもつようにすること。</p>	<p>動物の体のつくりと働き</p> <p>生物と環境</p> <p>水溶液の性質</p> <p>燃焼と空気</p>
小1～6	国語	<p>3 教材については、次の事項に留意するものとする。</p> <p>(1)教材は、児童の発達段階に即して適切な話題</p>	

		<p>や題材を精選して調和的に取り上げること。</p> <p>(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げることに役立つこと。</p> <p>イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。</p> <p>ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。</p> <p>エ 科学的、論理的な見方や考え方を育て、視野を広げるのに役立つこと。</p> <p>カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。</p> <p>キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。</p> <p>ク 我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。</p> <p>コ 世界の風土や文化などに理解をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。</p>	<p>生命の尊重</p> <p>自然を愛する心を育てる</p>
特別活動		<p>目標</p> <p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<p>集団の一員としての自覚</p>
上記以外の教科等		<p>他の教科等における環境教育に関連する内容や、実生活における環境に関連する事象を児童の発達段階を考慮しつつ、題材や課題に取り入れるようにすること。</p>	

【中学校】

中2	社会	地理	<p>内容</p> <p>(3) 世界と比べて見た日本</p> <p>ア 様々な面からとらえた日本</p> <p>世界的視野から見た日本の地域的特色と日本全体の視野から見た国内の諸地域的特色を追究し、我が国の国土の特色を様々な面から大観させるとともに、地域の規模に応じて、また、地域間を比較し関連付けて、地域的特色を明らかにする視点や方法を身に付けさせる。</p> <p>(ア) 自然環境から見た日本の地域的特色</p> <p>世界的視野から見て、日本は環太平洋造山帯に属し大地の動きが活発であること、温帯の島国、山国で降水量が多く、緑におおわれた国であること、自然災害が発生しやすく防災対策が大切であることといった特色を理解させるとともに、国内</p>	<p>日本の自然環境</p>
----	----	----	---	----------------

			<p>では地形、気候などにおいて地域差がみられることを大観させる。</p> <p>(ウ) 資源や産業から見た日本の地域的特色 世界的視野から見て、日本はエネルギー資源や鉱物資源に恵まれていない国であること、土地が高度に利用されていること、産業の盛んな国であることといった特色を理解させるとともに、国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること、環境やエネルギーに関する課題などを抱えていることを大観させる。</p> <p>イ 様々な特色を関連付けて見た日本 アの各項目で学習した成果を相互に関連付け、世界的視野から見た日本の地域的特色、日本全体の視野から見た諸地域の特色を大観させる。</p>	<p>エネルギー資源</p> <p>環境やエネルギーの課題</p>
	歴史	<p>内容</p> <p>(5) 近現代の日本と世界</p> <p>ク 高度経済成長以降の我が国の動きを世界の動きと関連させてとらえさせ、経済や科学技術の急速な発展とそれに伴う国民の生活の向上や国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことについて気付かせる。</p>	<p>高度経済成長と公害の発生</p> <p>国際社会における我が国の役割</p>	
	保健 体育	<p>保健分野</p> <p>(2)健康と環境について理解できるようにする。</p> <p>ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。</p> <p>イ 飲料水や空気は、健康と密接なかわりがあることから、衛生的な基準に適合するよう管理する必要があること。</p> <p>ウ 人間の生活によって生じた廃棄物は、衛生的に、また、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように処理する必要があること。</p> <p>内容の取扱い</p> <p>(5)内容の(2)については、地域の実態に即して公害と健康との関係を取り扱うことも配慮するものとする。また、生態系については、取り扱わないものとする。</p>	<p>環境への適応</p> <p>飲料水・空気と健康</p> <p>廃棄物 環境保全</p> <p>公害と健康</p>	
中3	社会	<p>公民</p> <p>内容</p> <p>(2)国民生活と経済</p> <p>イ 国民生活と福祉 国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考えさせる。その際、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実……</p>	<p>公害の防止 環境の保全</p>	

		<p>(3)現代の民主政治とこれからの社会 ウ 世界平和と人類福祉の増大 また、人類福祉の増大を図り、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題として、地球環境、資源・エネルギー問題などについて考えさせる。</p> <p>内容の取り扱い 4-ウ (I)「地球環境、資源・エネルギー問題」については、適切な課題を設けて行う学習を取り入れる。</p>	地球環境・資源 エネルギー問題
理科	第1分野	<p>内容 (7)科学技術と人間 エネルギー資源の利用と環境保全との関連や科学技術の利用と人間生活とのかかわりについて認識を深めるとともに、日常生活と関連付けて科学的に考える態度を養う。</p> <p>ア エネルギー資源 イ 科学技術と人間 (ア)科学技術の進歩による成果として新素材などの利用が行われ、日常生活が豊かで便利になったことを知るとともに、環境との調和を図りながら科学技術を発展させていく必要があることを認識すること。</p>	エネルギー資源 環境保全 環境との調和
	第2分野	<p>内容 (7)自然と人間 微生物の働きや自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解し、自然と人間のかかわり方について総合的に見たり考えたりすることができるようにする。</p> <p>ア 自然と環境 (ア)微生物の働きを調べ…… (イ)学校周辺の身近な自然環境について調べ、自然環境は自然界のつり合いの上に成り立っていることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。</p> <p>イ 自然と人間 (イ)自然がもたらす恩恵や災害について調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。</p> <p>内容の取扱い (8)内容の(7)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>ア アの(ア)については、生産者、消費者及び分解者の関連を扱い、土壌動物については簡単に扱うこと。</p>	身近な自然環境 大気 水

		イ アの(イ)の自然環境について調べることにについては、学校周辺の生物や大気、水などの自然環境を直接調べたり、記録や資料を基に調べたりする活動などを適宜行うこと。	
保健 体育	保健 分野	(4) 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。 ア 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。さらに、疾病は主体の要因と環境の要因がかかわりあって発生すること。 イ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活が必要なこと。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、健康を損なう原因となること。	健康と生活
中1～3	国語	3 教材については、次の事項に留意するものとする。 (1) 教材は、生徒の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。 (2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。 イ 伝え合う力、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにするのに役立つこと。 ウ 公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。 エ 科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つこと。 カ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。 キ 我が国の文化と伝統に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。 ク 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。	自然について考えを深める
	音楽	内容の取扱い (11) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、適宜、自然音や環境音などについても取り扱うとともに、コンピュータや教育機器の活用も工夫すること。	自然音や環境音
	技術 家庭	内容 (1)生活や産業の中で技術の果たしている役割について、次の事項を指導する。 イ 技術と環境・エネルギー・資源との関係につ	技術と環境

	<p>いて知ること。</p> <p>(6) 作物の栽培について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 作物の種類とその生育過程及び栽培に適する環境条件を知ること。</p> <p>内容の取扱い</p> <p>(1) ア (1)のイについては、技術の進展がエネルギーや資源の有効利用、自然環境の保全に貢献していることについて扱うこと。</p> <p>エ (6)については、草花や野菜等の普通栽培を原則とするが、地域や学校の実情等に応じて施設栽培等を扱うこともできること。</p>	<p>栽培と環境条件</p> <p>自然環境の保全</p>
家庭分野	<p>内容</p> <p>A 生活の自立と衣食住</p> <p>(2) 食品の選択と日常食の調理の基礎について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択することができること。</p> <p>イ 簡単な日常食の調理ができること。</p> <p>ウ 食生活の安全と衛生に留意し、食品や調理器具等の適切な管理ができること。</p> <p>(3) 衣服の選択と手入れについて、次の事項を指導する。</p> <p>イ 日常着の計画的な活用を考え、適切な選択ができること。</p> <p>ウ 衣服材料に応じた日常着の適切な手入れと補修ができること。</p> <p>(4) 室内環境の整備と住まい方について、次の事項を指導する。</p> <p>イ 安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方の工夫ができること。</p> <p>(6) 家庭生活と地域とのかかわりについて、次の事項を指導する。</p> <p>イ 環境や資源に配慮した生活の工夫について、課題を持って実践できること。</p> <p>B 家族と家庭生活</p> <p>(4) 家庭生活と消費について、次の事項を指導する。</p> <p>イ 自分の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫すること。</p>	<p>食品選択と環境への影響</p> <p>資源や環境への配慮</p> <p>室内環境</p> <p>生活の工夫</p> <p>環境に配慮した消費生活</p>
選択教科	<p>年間時数</p> <p>中1： 0～30時間</p> <p>中2： 50～85時間</p> <p>中3： 105～165時間</p> <p>内容</p> <p>課題学習</p>	

		補充的な学習 発展的な学習	
道徳		<p>内容</p> <p>3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。</p> <p>(1)自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。</p> <p>(2)生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</p> <p>4 主として集団や社会とのかかわりに関すること</p> <p>(3)公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。</p>	<p>自然愛護</p> <p>生命の尊さ</p> <p>集団や社会</p>
特別活動		<p>目標</p> <p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。</p>	<p>集団や社会の一員としての態度</p>
上記以外の教科等		<p>他の教科等における環境教育に関連する内容や、実生活における環境に関連する事象を生徒の発達段階を考慮しつつ、題材や課題に取り入れるようにすること。</p>	

【総合的な学習の時間】

小3～ 中3	総合的な学習の時間	<p>取扱い</p> <p>1 地域や学校、児童生徒の実態に応じて、総合的・横断的な学習や児童生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う。</p> <p>2 ねらい</p> <p>(1)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。</p> <p>(2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。</p> <p>3 学習活動</p> <p>例えば国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的・総合的な課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行う。</p> <p>4 配慮事項</p>	
-----------	-----------	---	--

		<p>(1)自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。</p> <p>(2)グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること。</p> <p>(3)＜小学校のみ＞国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行うときは、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること。</p>	
<p>総合的な学習の時間における環境教育に関する内容例 【小学校】</p>			
小3～4		<p>(環境全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と環境問題との関係を認識させ、それらが環境に配慮して行われていることや外国とのかかわり、自分たちの生活や産業とのかかわりなどを考えさせる。 <p>(生活環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化のために決められたゴミ分別の必要性を認識させ、地域社会の一員として社会のきまりや約束を守ることの必要性を考えさせる。 ・健康に過ごすためにはきれいな空気や水などが必要であることを認識させ、環境保全の大切さを考えさせる。 <p>(自然環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や動植物の飼育・栽培を通してその大きさ、美しさ、不思議さ等に気づかせ、生命を尊重し、自然環境を大切にすることを認識させる。 	
小5～6		<p>(環境全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人及び動植物と空気・水・日光・土との関わりや水俣病などの公害、ごみ問題等について認識させ、環境保全の大切さを考えさせる。 ・熊本の環境、周辺の環境の現状や水俣の環境保全の取組み等の調査や社会体験などを通して、地域社会の一員であることを自覚させるとともに、環境保全のためには一人ひとりの協力が必要であることを認識させ、自分たちできることを考えさせる。 <p>(生活環境)</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病を題材に水の汚染と健康についての関係を認識させ、家庭での水の使い方や生活排水がもたらす環境への影響を考えさせ、環境に配慮した水の使い方の工夫ができるようにする。また、水だけでなく、日常生活でのエネルギーの使用などによる環境への影響を考えさせ、環境に配慮した家庭生活の工夫ができるようにする。 <p>(自然環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本の地下水の現状や水源涵養などの森林の働きを認識させ、地下水や森林保全のためにできることを考えさせる。 ・郷土の自然に親しむなどして自然環境を大切にす る心やよりよい環境をつくろうとする態度を育てる。 	
【中学校】			
中1～3		<p>(環境全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水俣病を教訓として、環境と調和を図った科学技術の発展の必要性を認識させる。 ・地球環境・資源・エネルギー問題に関する課題を認識させ、それらの解決のためには、国際協力や協調の必要性や身近な生活との関連性などを考えさせる。 ・環境保全のための国や自治体の役割を考えさせるとともに、ボランティア活動などを通して、社会の一員としての役割と責任を自覚させ、環境保全活動に積極的に参加できるようにする。 <p>(生活環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の環境やエネルギーの問題などをを認識させ日常生活が環境に与える影響について考えさせる。 ・熊本の気や水の現状や水俣病などから環境と健康は密接な関係があることを認識させ、生活環境の保全の重要性や考えさせる。 ・環境に配慮した消費生活の工夫ができるようにする。 <p>(自然環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境は食物連鎖などによって自然界のつり合いの上に成り立っていることや水俣病が食物連鎖によって起こったことなどから、自然環境保全の重要性を認識させ、人と自然とのかかわり方について考えさせる。 	